

2022年度
柔道整復科
I部1年
シラバス

【分野】	基礎分野 総合基礎 I		
【科目】	社会福祉論		
【基本情報】			
配当年次	1 学年	担当教員	長野 慎一
単位数	2 単位		
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義 16回
【授業情報】			
授業概要	<p>社会福祉の全体像を概括的に学びます。具体的には次の各点に焦点を当てます。</p> <p>(1)社会福祉の実践の根底にある理念とはどのようなものであるのか、</p> <p>(2)福祉を必要とする人にこれを供給するための仕組みとしてどのようなものがあるのか、</p> <p>(3)上記の(1)や(2)は国や地域に応じてどう異なるのか。</p> <p>授業は、これらの問いに導かれる形で展開されます。</p>		
授業の一般目標 (GIO)	<p>(1)福祉の根底にある理念を理解し、自ら咀嚼して表現できるようになる。</p> <p>(2)社会福祉に関する制度について正しく理解し、それを表現できるようになる。</p> <p>(3)自ら暮らす日本社会における福祉供給体制について、他の地域・国と比較することで理解し、相対的に考えることができるようになる。</p>		
【担当教員から】			
教科書	なし		
参考書	授業内にレジュメで指示します。		
成績評価基準	<p>以下の各点を、期末試験及び小レポートで問います。</p> <p>(1)授業で説明した知識を理解し表現できるか。</p> <p>(2)授業で説明した知識を用いて、自ら社会福祉について思考を深め、それを表現できるか。</p>		
成績評価方法	<p>(1)期末テスト(55%点)と授業内レポ(45%)</p> <p>(2)授業内で課す小レポが非常に重要です。真剣に取り組んでください。</p> <p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>		
授業時間外に必要な学習	各授業に対して復習を1時間		
履修にあたっての留意点	<p>社会福祉という語を聞いても、ほとんどの人が、漠然とした内容しか思い浮かばないのではないのでしょうか。本講義では、日本社会の具体的な制度を取り上げ、社会福祉が意味するところを具体的に知ることができます。同時に他国の制度との比較を通して、福祉に対する考え方の多様性に触れることができます。社会福祉の在り方は、皆さまの生(人生・生活・生命)の在り方を大きく左右します。ぜひ当事者意識をもって積極的に学んでください。</p>		
オフィスアワー	授業前・講師控室。授業後・教室。		

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
4 月 ～ 6 月	1	社会福祉と福祉国家(1)	国民(住民)の福祉に責任を負う国家の特徴とそのような国家が出現した歴史的背景を理解し説明できる。	講義
	2	社会福祉と福祉国家(2)		講義
	3	公的扶助としての生活保護(1)	貧困に対処する公的制度として生活保護制度の原則と概要を理解する。現代日本の貧困の状況に対して生活保護制度が果している役割を理解し説明できる。	講義
	4	公的扶助としての生活保護(2)		講義
	5	年金制度(1)	労働市場からの退出に伴う高齢期の生活保障制度としての公的年金制度の概要を理解する。働き方の相違がいかに保障の厚さの差として結実するかを理解し説明できる。	講義
	6	年金制度(2)		講義
	7	介護保険制度(1)	介護の社会化を図る制度としての公的介護保険制度を理解する。現代日本社会における家族による介護に焦点を当て、介護の社会化の程度を理解し説明できる。	講義
	8	介護保険制度(2)		講義
	9	医療保険制度	傷害や病気というリスクを社会的に低減する公的制度としての公的医療保険制度を理解し説明できる。	講義
	10	子ども・子育て支援制度	育児の社会化を図る制度として子ども・子育て支援制度の概要を理解し説明できる。	講義
	11	育児介護休業制度(1)	育児や介護などケアを家族に対して行う労働者を支援する制度としての育児介護休業制度の概要を理解する。働き方の相違がいかに制度の利用の格差差として結実するかを理解し説明できる。	講義
	12	育児介護休業制度(2)		講義
	13	福祉レジーム論(1)	エスピン-アンデルセンの福祉レジーム論を理解し、これに照らして日本社会の福祉供給の在り方を理解し、自ら評価できるように理解し説明できる。	講義
	14	福祉レジーム論(2)		講義
	15	福祉レジーム論(3)試験		講義
	16	復習・試験		試験

【分野】	基礎分野 総合基礎1			
【科目】	コミュニケーション			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	奈良 雅之	
単位数	2 単位			
開講学期	1学期・2学期	授業形態・回数	講義	16回
【授業情報】				
授業概要	コミュニケーションに関する基礎理論を学習し、社会に出てからの対人コミュニケーションを円滑にする基本的コミュニケーション能力を習得することを目標とします。 社会に出ると、様々な考え方・価値観・行動様式を持った人たちとコミュニケーションをとらなくてはなりません。これまでの家族や友人達と行ってきた方法では上手くいかない場面におかれた時、その場に相応しいコミュニケーション能力が必要となります。			
授業の一般目標 (GIO)	本科目では、コミュニケーションをとる上での基本的な理論・方法論を学び、授業への積極的な参加を通してコミュニケーション能力を高めていくこととなります。また、鍼灸・柔整の臨床で求められる医療面接の基礎についても学びます。			
【担当教員から】				
教科書	なし			
参考書	参考書 丹澤章八編『鍼灸臨床における医療面接』(医道の日本社)、丹澤章八監『あはぎ心理学入門』(ヒューマンワールド社)			
成績評価基準	評価の観点(1)授業の理解と表現 (2)知識の浸透度と理解度とし、授業毎の提出物と学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学習	予習: 事前に配布する資料を読んで授業に出席すること。復習: 学習した内容は筆記試験に備えてまとめておくこと。			
履修にあたっての留意点				

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
6 月 ～ 9 月	1	コミュニケーションの基礎(1)話し方・伝え方	話し方・伝え方の要点について学び抑揚や間によって言葉の意味が変わることを理解する。	講義
	2	コミュニケーションの基礎(2)インタビューの導入	インタビュー課題の実施を通して質問技法について学習する。	講義
	3	非言語コミュニケーション(1)姿勢・対人距離	姿勢や対人距離測定を通して会話の時の適切な距離を理解する。	講義
	4	非言語コミュニケーション(2)身振り・視線	会話における身振りや視線の効果について体験的に学ぶ。	講義
	5	言語コミュニケーション(1)接遇とマナー	接遇、マナー、敬語について理解する。	講義
	6	言語コミュニケーション(2)インタビューの実践	インタビュー課題の実施を通して質問技法について学習する。	講義
	7	プレゼンテーション(1)スピーチ課題実施	1分間スピーチを通して発表技能を高める。	講義
	8	前半のまとめ / 第1回試験	1～7回の授業のまとめを行う。	講義 試験
	9	論理的に思考する(1)ディベート導入	ディベート課題の実施を通して対話力と論理的思考力を養う。	講義
	10	論理的に思考する(2)ディベート実践	ディベート課題の実施を通して対話力と論理的思考力を養う。	講義
	11	説得的コミュニケーション(1)基礎理論を学ぶ	説得場面で見られる対人コミュニケーションの理論と技法について理解する。	講義
	12	説得的コミュニケーション(2)ワークで体験する	説得場面で見られる対人コミュニケーションの理論と技法について理解する。	講義
	13	カウンセリングの基礎(1)傾聴と共感	ペアワークによりカウンセリングの態度と技法を学ぶ	講義
	14	カウンセリングの基礎(2)自己理解・他者理解	カウンセリングマインドを養うための自己理解ワークやリフレーミングなどを体験する	講義
	15	医療コミュニケーション ロールプレイ	台本に従って患者役、治療者役を演じてみる。	講義
	16	後半のまとめ / 第2回試験	9～15回の授業のまとめを行う。	講義 試験

【分野】	基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活			
配当年次	1	学年	吉崎 正恒	
単位数	1	単位	担当教員	実務経験
		授業形態・回数	講義	8回
授業概要	漢字の学習、作文の書き方、文章読解の方法などを総合的に学習する。教材はすべてプリントを配付し、それをもって講義を行う。ほぼ毎回、提出物を講義中に書いて、提出することになる。			
授業の一般目標 (G10)	これから、さまざまな講義を受けるための読解能力、将来、仕事に就いたときの一般教養など、さまざまな観点から日本語について学ぶ。			
教科書				
参考書	『パスポート』（桐原書店） 『常用漢字アルファ』（桐原書店） ただし、購入の必要なし。すべてプリント			
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 最後に試験にて評価を行う。</p> <p>提出物と授業態度50%、期末試験50%</p>			
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、漢字の理解、作文の理解などを中心に試験の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満</p>			
授業時間外必要な学修	配付したプリントの復習			
履修にあたっての留意点	将来必要な日本語の知識を習得する気持ちが必要			
学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
9月	1	・漢字の学習	難読漢字を読み、自分の知識を広める。最後に漢字検定8級のテストを行う。	講義
	2	・漢字の学習	難読漢字を読み、自分の知識を広める。最後に漢字検定7級のテストを行う。	講義
	3	・作文の学習	文章の構成を知り、誤りのある文章を添削しながら、書くことの楽しさを知る。最後に漢字検定6級のテストを行う。	講義
	4	・作文の学習	実際に作文を書いてみる。まず課題文のある作文を書く。最後に漢字検定5級のテストを行う。	講義
	5	・作文の学習	実際に作文を書いてみる。履歴書を書いてみて自分自身のことを知る。最後に漢字検定4級のテストを行う。	講義
	6	・文章読解	小説を読み、その面白さについて学ぶ。最後に漢字検定3級のテストを行う。	講義
	7	・文章読解	2年生の教科書から部分を抜き出し、読解の方法を知る。最後に漢字検定準2級のテストを行う。	講義
	8	・試験	作文の試験と漢字の試験を行う。最後に漢字検定2級のテストを行う。	試験

【分野】	基礎分野 総合基礎 I			
【科目】	医療英語			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	西方 祐美子	
単位数	2 単位		にしかた ゆみこ	
開講学期	3学期	授業形態・回数	講義	16回
【授業情報】				
授業概要	英語を学ぶ意義を考え、医療に必要な英単語等を学び、知識を深める。 また患者対応に必要な英会話についても講義を通じて行っていく。			
授業の一般目標 (GIO)	日常診療で外国人患者を診察する機会がこれから益々増えることを踏まえ、起こり得るシチュエーションをロールプレイ等を通じて体験し、自信を持って対応できるようになる。			
【担当教員から】				
参考書	やさしい英語で外来診察(羊土社) 運動動作の英語表現(医学書院) 音声と例文で覚える、英語医療単語1000(株;南雲堂) 病院スタッフ・シチュエーション英会話(メジカルビュー社)			
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。 試験 出席 課題提出率(意欲・関心・態度)			
成績評価方法	基本的には2回の試験(中間試験と本試験)を行う。 試験評価(計100点での評価) ①英会話試験+筆記試験の平均点(最大50点) ②各講義日に行われ提出された課題レポート(最大50点) 提出回数が3回であれば、1回未提出につき-16点 提出回数が4回であれば、1回未提出につき-12点 ※レポート点数は英会話試験と筆記試験を行うことで適用される。上の項目により総合的に評価する。 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A:100~90点 (2) B: 89~70点 (3) C: 69~60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学習	授業(英会話・医療英語)の復習。			
履修にあたっての留意点	失敗を恐れずに、積極的に授業に取り組んで欲しい。			

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1 0 月 5 1 2 月	1	self-introduction/get to know each other	英語で話すことに慣れ、クラスメイトについて知る	講義
	2	body parts and organs	体の部位を英語で表現する	講義
	3	skeletal system	骨格について英語で表現する	講義
	4	greetings	挨拶や受付時の会話を英語で表現する	講義
	5	at the reception counter	挨拶や受付時の会話を英語で表現する	講義
	6	conditions	体の状態について英語での表現方法を知る	講義
	7	symptoms	体の症状について英語での表現方法を知る	講義
	8	review/中間試験		
	9	physical exercise/lying position	横になった状態での様々な動作について英語で指示する	講義
	10	physical exercise/sitting position	椅子に座った状態での様々な動作について英語で指示する	講義
	11	in the consultation room 1	治療や施術についての英語表現	講義
	12	in the consultation room 2	治療や施術についての英語表現	講義
	13	at the cashier	支払いや次回の予約について英語で伝える	講義
	14	important/useful phrases 1	覚えておく便利なフレーズを知る	講義
	15	important/useful phrases 2	覚えておく便利なフレーズを知る	講義
	16	review/本試験		試験

【分野】	基礎分野 総合基礎 I		
【科目】	生物学		
【基本情報】			
配当年次	1 学年	担当教員	谷沢 英治
単位数	1 単位		
開講学期	2学期・3学期	授業形態・回数	講義 16回
【授業情報】			
授業概要	・柔道整復専門基礎科目を履修するにあたり必要な生物学の基礎を学ぶ。		
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・生命活動の基本単位である細胞の構造とはたらきを理解する。 ・エネルギーを得るための代謝のはたらきについて知る。 ・生命の設計図としての遺伝子の構造とはたらきを知る。 ・体内の調節機構としての神経系、内分泌系の採用を理解する。 ・体内環境の維持のしくみについて知る。 ・生体防御のしくみを知る。 ・上記の内容について、解剖学的、生理学的な理解への入り口とするだけでなく、生物としての進化や臨床につながるような身体感覚の視点からアプローチする。 		
【担当教員から】			
教科書	適宜作成プリント配布		
参考書			
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。		
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>		
授業時間外に必要な学習	予習: 事前に配布する資料を読んで授業に出席すること。復習: 学習した内容は筆記試験に備えてまとめておくこと。		
履修にあたっての留意点	<p>人体の理解のために、まず科学的な探究の態度と基礎的な概念としての生物学を学びます。治療家としてのゴールとしての関心は治療であり、人体ですが、実は、症状やその発生機序ともに、生物としての38億年にも及ぶ祖先の生命活動と環境適応への歴史が大きく現在の私たち、ヒトという生物に関与しています。つまり、これまでに地球上に現れたさまざまな生物の形態や機能、さらに生態も含めて、治療へのヒントを得ることができるのです。今後の専門教育や臨床に臨むにあたって、この講義を通じてそのような視点を培ってほしいと考えています。</p>		

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1 2 月 ～ 1 月	1	生物としてのヒト	多様性、共通性を具える生物としてのヒトの特徴を理解する。	講義
	2	生体を構成する物質	生体を構成する基本的な物質が説明できる。	講義
	3	細胞	生命現象の基本単位である細胞について、構造や機能が説明できる。	講義
	4	代謝	生体における物質循環、エネルギーの流れが説明できる。	講義
	5	遺伝と遺伝子	遺伝現象を司る遺伝子の正体、機能について説明できる。	講義
	6	内分泌系による調節	自律神経と内分泌系による体内環境の調節について説明できる。	講義
	7	生体防御と免疫	生体防御としての免疫の機構が説明できる。	講義
	8	生物の進化と適応 試験	現代人の抱える医療の課題と生物学的・進化的視点とを関連付けて考えることができる。	講義

【分野】	基礎分野 総合基礎 I			
【科目】	運動と健康			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	春日井 有輝	
単位数	1 単位			
開講学期	1学期	授業形態・回数	講義	8回
【授業情報】				
授業概要	超高齢社会に突入した日本では、健康寿命を延ばすために改めて健康への関心が高まっている。このような社会の中で、健康の根本となる睡眠、食事、運動の重要性を再度認識していく。この授業においては運動と健康との関わりや、スポーツにおける医療の役割に焦点を当て、自らが実践することはもとより他人への適切な指導を行うことができる知識技能の習得を目指す。			
授業の一般目標 (GIO)	健康の維持、増進をするための運動の重要性を理解し、運動と身体の変化の関連を踏まえ、自ら又は他人へ指導実践するために必要な知識技術を習得する。			
【担当教員から】				
教科書	特に指定しない。			
参考書	健康運動指導士養成講習会テキスト, 健康・体力づくり事業財団 公認スポーツ指導者養成テキスト(共通科目)Ⅰ～Ⅲ, 日本体育協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト1～9, 日本体育協会			
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、授業への参加状況と学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	<p>期末試験成績――80%</p> <p>授業参加状況――20%</p> <p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>			
授業時間外に必要な学習	各授業に対して復習を1時間			
履修にあたっての留意点	<p>柔道整復師は主に運動器傷害に対する治療を行います。それに加えて患者に健康に関する情報を提供することや、適切な運動やリハビリテーションの指導を行うことも期待されています。</p> <p>本講義では健康と運動・スポーツに関する基礎的な内容について幅広く講義します。</p> <p>本講義を受講し、皆さんの今後の専門科目や実習等に対する関心・意欲が高まることを期待します。</p>			
【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1 月 5 2 月	1	予防医学と運動、貧血	予防医学における運動の役割を理解し説明できる。	講義
	2			講義
	3	アスレティックリハビリテーション	ケガから現場へ復帰するための運動器へのアプローチの手法を理解し説明できる。	講義
	4			講義
	5	リカバリーとコンディショニング	スポーツで高いパフォーマンスを得るための、身体に対する有効なコンディショニングの手法を理解し説明できる。	講義
	6	救急処置、応急手当、熱中症	スポーツ現場で生じる障害及び傷害を理解しその概要と現場での対処法が説明できる。	講義
	7			講義
	8	試験		試験

【分野】	専門基礎分野 人体の構造と機能		
【科目】	人体構造学 I		
【基本情報】			
配当年次	1 学年	担当教員	表原 拓也／早川 幸秀
単位数	4 単位		
開講学期	通年	授業形態・回数	講義 40回
【授業情報】			
授業概要	医学、及び柔道整復を修得するための基礎として、人体について構造と機能を理解し、考察できる能力を身につける。		
授業の一般目標 (GIO)	解剖学総論で解剖学への興味と学ぶ必要性を理解し循環器系・神経系・感覚器系・循環器系、筋骨格系の構造と作用を修得する。		
【担当教員から】			
教科書	「解剖学」改訂第2版 (社)全国柔道整復学校協会 (株)医歯薬出版		
参考書	人体系統解剖学(南山堂)吉川文雄著 スネル ー臨床解剖学ー		
成績評価基準	<p>評価の観点(1)授業の理解と表現 (2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。授業の理解度を評価するために、学期末ごとに課題を提出させ評価する。</p> <p>各学期末試験は記述試験 課題は各学期末試験範囲のレポート</p>		
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A:100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>		
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと		
履修にあたっての留意点	<p>解剖学は正常の人体における構造を学ぶ学問です。外傷や疾病などの治療を行うためには、人体の「正常な構造や位置」などを理解していなければ異常を見つけることは出来ません。人体は細胞の集団で構成されていることから、1年次では細胞を学習し、人体の軸となる頭部や体幹部の骨や骨格筋、神経系や心臓を含む脈管系を講義します。</p> <p>人体構造の基盤となりますので、構造をしっかりとイメージ出来るように身につけていきましょう。</p>		

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	解剖学の歴史と意義 細胞の基本構造と分化	解剖学を学ぶ意義を理解し人体構造への興味と畏敬の念を持つ。 細胞とその発生、機能に応じた組織の種類、器官と器官系の関係を説明できる。 筋の組織像からみた骨格筋の特徴と分類の基準を明確に伝われる。	講義
	2	細胞と組織、組織の種類と発生		講義
	3	器官、器官系、解剖学の用語 人体内部の区分と用語 人体の位置関係、方向、面		講義
	4	上皮組織・腺組織の構造		講義
	5	筋組織の区分と構造		講義
	6	神経系の構成 シナプスの構成	神経系の構成の概略を理解し、中枢神経と末梢神経の区分を説明できる。 ニューロンの構造とシナプスの神経終板の微細構造を説明できる。	講義
	7	中枢神経と末梢神経		講義
	8	血管系とリンパ系	血管系とリンパ管の違いを説明できる。	講義
	9	心臓の構成	心臓の構成を知り、循環系とリンパ管系の関連を説明できる。	講義
	10	試験		

1期	11	運動器の概要 / 人体の構成 / 器官系の区分	運動器の構成を説明できる。 器官と器官系の関係を説明できる。	講義
	12	上皮組織 / 支持組織(結合組織)の分類と特徴 支持組織(結合組織) / 骨の役割	上皮組織の区分と構造を説明できる。 支持組織の分類と役割を説明できる。	講義
	13	上皮組織 / 支持組織(結合組織)の分類と特徴 支持組織(結合組織) / 骨の役割		講義
	14	上皮組織 / 支持組織(結合組織)の分類と特徴 支持組織(結合組織) / 骨の役割		講義
	15	骨の形状と構造 / 骨の発生と成長	骨の構造と役割を説明できる。 骨の形状と発生の仕方を説明できる。	講義
	16	運動の面と軸 / 関節の運動 / 関節の構造と補助装置	関節の構造と捕縄装置の役割を説明できる。 関節の構造による違いを分類できる。	講義
	17	筋組織の形態的分類と特徴 筋の作用と骨格筋の構造	各種の筋の形態を説明できる。 骨格筋の作用と構造を説明できる。	講義
	18	筋の補助装置	骨格筋の補助装置を説明できる。	講義
	19	神経組織の構造と分類	神経組織の構造を説明できる。 神経組織の分類を説明できる。	講義
	20	試験		試験

2期	21	心臓の構造と循環・刺激伝導系	心臓や循環をを説明できる。 刺激伝導系を説明できる。	講義	
	22	動脈と静脈、毛細血管の形態	血管の形態の違いを説明できる。 全身の動脈の走行を説明できる。 全身の静脈の走行を説明できる。 細網内皮系の骨髄、脾臓、胸腺などの構造と役割を説明できる。 リンパ系と血液循環系との連関を理解する。	講義	
	23	頭頸部の動脈と静脈		講義	
	24	上肢の動脈・静脈 上肢の拍動触知部位		講義	
	25	胸腹部の動脈 奇静脈 門脈系		講義	
	26	奇静脈 門脈系		講義	
	27	下肢と骨盤の動脈・静脈 下肢の拍動触知部位		講義	
	28	リンパ系 / 脾臓・胸腺・		全身の動脈の走行を説明できる。 全身の静脈の走行を説明できる。 リンパ系と血液循環系との連関を理解する。	講義
	29	骨髄と免疫担当細胞		講義	
	30	試験			試験
3期	31	大脳の形態と機能 / 大脳と神経線維の役割	大脳の形態と機能が説明できる。 脳幹の区分と構造を説明できる。 小脳の形態と機能が説明できる。 伝導路の分類と走行が説明できる。	講義	
	32	脳室系 脳幹の構造と区分		講義	
	33	下垂体と視床の形態 / 小脳の形態 / 伝導路		講義	
	34	脳神経 I・II・III・IV・V・VI	神経節の所在や分布などを説明できる。 各脳神経の性状及び機能を説明できる。	講義	
	35	脳神経IX・X・XI・XII		講義	
	36	脊髄	脊髄の区分と構造、脊柱管との位置関係が説明できる。 脊髄内の形態を説明できる。	講義	
	37	脊髄		講義	
	38	感覚器としての皮膚の構造・眼球の構造	感覚器の種類と機能を説明できる。 各感覚器の構造を説明できる。	講義	
	39	内耳の構造・嗅上皮と味蕾、その他の感覚受容器		講義	
	40	試験		試験	

【分野】	専門基礎分野 人体の構造と機能			
【科目】	人体機能学 I			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	渡辺 賢／早川 幸秀	
単位数	4 単位			
開講学期	通年	授業形態・回数	講義	40回
【授業情報】				
授業概要	医学、及び柔道整復を修得するための基礎として、人体について構造と機能を理解し、考察できる能力を身につける。			
授業の一般目標 (GIO)	個体の最小単位である細胞の営みの仕組み、神経系、運動機能を有する筋肉について修得する。運動の力学的機能、人体に対する力学的機能、運動器の神経構造について修得する。			
【担当教員から】				
教科書	公益社団法人柔道整復学校協会監修 生理学・公益社団法人柔道整復学校協会監修 運動学			
参考書	生理学テキスト(著 大地 陸男/文光堂)解剖生理学第10版(著 坂井 建雄、岡田 隆夫/医学書院)			
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>			
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと。			
履修にあたっての留意点	授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書室での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。			

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	生理学の意義	1 人体を構成する各要素の働きを学び、人体全体として機能を理解出来る。	講義
	2	細胞の構造と機能	1 細胞内小器官の構造と機能を理解できる。	講義
	3	生体の物理化学的基礎	1 生体内での物質移動の原理が理解できる。	講義
	4	体液の調節	1 体液、特に細胞外液の恒常性を維持する仕組みが理解できる。	講義
	5	ニューロンの構造と機能	1 ニューロンの構成について理解できる。	講義
	6	興奮発生の仕組み	1 興奮について理解する。	講義
	7	静止膜電位 活動電位	1 静止膜電位と活動電位の発生機序とその意義を理解する。	講義
	8	興奮の伝達	1 興奮伝達についてシナプス伝達の仕組みと特徴を理解する。 2 シナプス接続とシナプス前抑制を理解する。	講義
	9	試験		講義
2期	10	興奮の伝導	1 興奮伝導の仕組みとその三原則ならびに神経線維の太さとの関係を理解する。	講義
	11	反射と反射弓	1 神経系における反射機能の生理的意義と反射弓の構成を理解する。	講義
	12	体性神経系と自律神経系	1 体性神経系と自律神経系の機能的役割を理解する。	講義
	13	交感神経・副交感神経の機能	1 交感神経、副交感神経の解剖学および機能的な相違を理解する。	講義
	14	運動調節の概要	1 運動神経による骨格筋支配の仕組みを理解する。 2 筋紡錘、腱紡錘の機能的役割について理解する。	講義

	15	脊髄における運動調節	1 脊髄における運動調節の仕組み、脊髄反射の仕組みと生理的意義を理解する。	講義
	16	大脳辺縁系、脳幹における運動調節	1 大脳辺縁系、脳幹における運動調節の仕組みと生理的意義を理解する。	講義
	17	2期期末試験		
3期	18	小脳の機能・大脳基底核の機能	1 小脳、大脳基底核の機能を理解する。	講義
	19	新皮質運動野の機能	1 新皮質運動野の機能区分を理解する。	講義
	20	新皮質の機能	1 新皮質では高次機能が局在していることを理解する。 2 神経細胞体の活動状態を脳波の波形から理解する。 3 覚醒と睡眠の仕組みを理解する。 4 認知、言語、意思などを司っている連語やの働きを理解する。	講義
	21	感覚の分類と一般性質	1 感覚の種類を理解する。 2 感覚の一般的性質を理解する。	講義
	22	皮膚感覚・痛覚	1 皮膚感覚である痛覚、触圧覚、温冷覚の特徴を理解する。	講義
	23	深部感覚・平衡感覚	1 深部感覚の特徴と種類と意味を理解する。 2 前庭器官の構造を理解出来る。	講義
	24	味覚と嗅覚 聴覚	1 味覚の特徴と種類と発生機序を理解する。 2 耳の構造と聴覚発生機序を理解する。	講義
	25	視覚	1 眼の構造を理解する。 2 遠近調節の仕組みを理解する。	講義
	26	骨格筋の構造	1 骨格筋の構造を理解する	講義
	27	筋収縮の仕組み、収縮の仕方	1 筋収縮の仕組みを理解する。 2 筋細胞膜を興奮させる仕組みを理解する。 3 筋収縮のエネルギーとしてのATP供給の仕組みを理解する。	講義
	28	骨格筋線維とタイプ分類、筋の特徴と比較	1 骨格筋タイプの特徴をそれぞれ理解する。 2 骨格筋、心筋、平滑筋の特徴を理解する。	講義
	29	3期期末試験		
	30	年間総復習		講義
3期	31	身体運動に関する力	身体運動の力を説明できる。	講義
	32	身体運動に関する力		講義
	33	テコの構造	各関節を各テコに分類できる。	講義
	34	運動の法則	各運動の法則を説明できる。	講義
	35	運動の法則		講義
	36	脊髄の構成	脊髄と脊髄神経の構成を説明できる。 脊髄反射を説明できる。	講義
	37	筋紡錘・脊髄反射		講義
	38	脊髄反射		講義
	39	腱紡錘		講義
	40	試験		試験
【分野】	専門基礎分野 保険医療福祉と柔道整復の理念			

【科目】	柔道の成り立ちと職業倫理			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	須賀 一成/高橋 光生/杉山 直人	
単位数	4 単位			
開講学期	通年	授業形態・回数	演習	40回
【授業情報】				
授業概要	柔道の技術、礼法を習得すると共に对人的技能の向上、投げの形を体得する。 また、信頼される社会人として果たすべき責任や医療関係者としての倫理について学ぶ。			
授業の一般目標 (GIO)	柔道の基本的動作を体得し柔道を通して精神・身体の修養と鍛錬、世に補益することを目標とする。 柔道整復師の倫理、心構えを理解し、人間の尊厳を基調として倫理的側面が理解できる。			
【担当教員から】				
教科書	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編集)、関係法規(全国柔道整復学校協会監修)、配布資料			
参考書	柔道(柏崎克彦著) 寝技で勝つ柔道(柏崎克彦著) 投げの形・柔の形(講道館)DVD			
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学修	各授業に対して復習を1時間			
履修にあたっての留意点	放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して柔道場にて練習を行うこと。			

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	柔道の基本	柔道の概要を理解する 礼法の意義と目的を知る。 各礼法の相違を理解する。 正しい礼法を理解する。	演習
	2	受け身	受け身の概要を理解する。	演習
	3	自然本体 右・左自然体・足運び	体捌きの概要を理解する。	演習
	4	組み方	基本的な組み手を知る。 正しい組み方を理解する。 正しい姿勢での組み方を体得する。	演習
	5	右・左 両衿(足運びしながら)		演習
	6	投げに対する受け身	受け身の安全性を理解する。 投げ技に対する受け身を知る。 正しい受け身を体得する。	演習
	7	体落とし 腰技に対し		演習
	8	背負い投げ 足技に対し		演習
	9	投げに対する受け身復習	投げ技の安全性を理解する。 投げ技の成り立ちを理解する。 投げ技の形を理解する。	演習
	10	間合い くずしとつくり		演習
	11	足の運び方 バランス		演習
	12	投げ技 背負い投げ	くずしとつくりを理解する。 技を掛けるためのくずしとつくりを知る。 安全に技を掛けるための基本を理解する。 技を掛けるときのバランスを体得する。 技の理合いを理解する。	演習
	13	体落とし 大外刈		演習
	14	腰技(大腰 釣り込み腰)		演習
	15	投げ込み総復習		演習

後期	16	足技(足払い 支え釣り込み足)	抑えの時間、参りの合図を知る。 抑え技の種類を知る。	演習
	17	抑え技	抑え技の形を知り理解する。	演習
	18		抑え技における体の位置を理解する。 各抑え技を体得する。	演習
			投げ技から抑え技への連携を体得する。	
	19	投げの形	投げの形(手技)を知る。	演習
	20		投げの形の間合い、礼法を知る。 浮き落としを知り理解する。	演習
	21		背負い投げを知り理解する。 肩車を知り理解する。	演習
	22		投げの形(腰技)を知る。 浮腰を知り理解する。	演習
	23		払い腰を知り理解する。 釣り込み腰を知り理解する。	演習
			投げの形(足技)を知る。 送り足払いを知り理解する。 支え釣り込み足を知り理解する。 内股を知り理解する。	演習
	24	参りの合図活法(惣活)	参りの約束事を理解する。	演習
	25	絞め技	絞め技の種類を知る。 絞め技で攻め方、逃れ方を知り理解する。 裸絞め、送り衿絞め、片羽絞めを理解する。 並十字、片十字、逆十字絞めを理解する。	演習
	26	投げ技 くずしとつくり	基本技を中心とした乱取りができる。	演習
	27	投げと受け身	正しく投げ、正しく受け身がとれる。 各種の技を使い柔道ができる。	演習
	28	乱取り	柔道競技のルールを理解する。	演習
	29		柔道競技における反則技を理解する。 ルールを理解した競技ができる。	演習
	30	試験		
	31	医療と倫理	医療倫理の特殊性を知る。	演習
	32		柔道整復師としての倫理を理解する。	演習
	33	職業と倫理	柔道整復師の心構えを理解する。	演習
	34		柔道整復師の倫理綱領を知る。	演習
	35	医療倫理の基本原則	インフォームドコンセントについて理解する。	演習
	36		患者の権利やパターンリズムについて理解する。	演習
	37		GOL、SOLについて理解する。	演習
	38	患者との接し方	患者に対しての言葉遣い、態度について知る。	演習
	39	コンプライアンス(法令遵守)	守秘義務、個人情報保護について理解する。	演習
	40	試験		

【分野】	専門分野 基礎柔道整復学			
【科目】	柔道整復構造機能論基礎			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	加藤 栄二／千葉 真央／早川 幸秀	
単位数	3 単位		実務経験	施術所5年以上
開講学期	1学期・3学期	授業形態・回数	講義	30回
【授業情報】				

授業概要	柔道整復施術所での実務経験を活かしより実践に必要な骨、関節、筋、作用を講義を通じて学習する。
授業の一般目標 (GIO)	柔道整復構造機能論では柔道整復に必要な上肢の骨、関節、筋、神経、作用を理解し、各々の関節の運動と、その運動に関与する筋を理解する。
【担当教員から】	
教科書	学校法人呉竹学園「柔道整復学を学ぶための運動基礎知識」
参考書	「解剖学」改訂第2版(社)全国柔整学校協会監修 「運動学」改訂第3版(社)全国柔整学校協会監修 坂井建雄、松村讓児 監訳『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系』医学書院
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満
授業時間外に必要な学習	各授業に対して復習を2時間
履修にあたっての留意点	予習より復習が大事です。 この科目が抑えられないと柔道整復理論関係の科目で躓いてしまいます。文字だけを覚えるのではなく、立体的に体を捉えられるようにして、「使える知識」を目指しましょう。 上級学年の授業では、この科目の内容を覚えていないとついていくことが難しくなってしまいます。常に復習をして、しっかり覚えた状態で次学年に進みましょう。

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	上肢帯(肩甲骨・鎖骨)	上肢帯及び上肢を構成する骨の名称・形状・位置を知りその役割を述べるができる。	講義
	2	上腕骨・前腕骨		講義
	3	手根骨・指骨		講義
	4	上肢帯(肩甲骨・鎖骨)の連結、上肢帯の運動	上肢にある関節の構成骨・構造を知り、それぞれ機能及び運動場の特徴を述べるができる。	講義
	5	肘関節・手関節、肘、手関節の運動		講義
	6	浅胸筋、浅背筋、上肢帯の筋		講義
	7	上肢帯の筋、上腕の筋、前腕の筋	胸部・上肢・上肢帯における筋の名称を知り、形状、起始と停止、作用、支配神経を述べるができる。 上肢における神経の名称を知り、それらが通過する特徴的な部位を述べるができる。	講義
	8	上腕の筋、前腕の筋 手の筋		講義
	9	末梢神経		講義
	10	試験		試験
	11	寛骨(腸骨、坐骨、恥骨)	下肢帯及び下肢を構成する骨の名称・形状・位置を知り、その役割を述べるができる。	講義
	12	大腿骨 膝蓋骨		講義
	13	下腿骨 足の骨		講義
	14	骨盤周囲の骨の連結 股関節	下肢にある関節の構成骨・構造を知り、それぞれ機能及び運動上の特徴を述べるができる。	講義
	15	膝関節 足部の関節 股・膝・足部の運動		講義
	16	下肢帯筋・大腿の筋		講義
	17	下肢帯筋・大腿の筋	下肢帯および下肢における筋の名称を知り、形状、起始と停止、作用、支配神経を述べるができる。	講義
	18	下腿の筋		講義
	19	下腿の筋・足の筋		講義
	20	試験		試験
3期	21	脊髄反射(屈曲反射)	屈曲反射を説明できる。 デルマトームを説明できる。 脊髄神経叢の構成を説明できる。	講義
	22	デルマトーム / 脊髄神経叢		講義
	23	脳神経の分類 / 頭蓋骨の構成	脳頭蓋骨と顔面頭蓋骨の区分と構造を説明できる。 脳神経の分類し頭蓋骨の通過部位を説明できる。 顎関節の構成と咀嚼筋を説明できる。	講義
	24	頭蓋骨の構成 / 頭蓋底の構成と通過する組織		講義
	25	顎関節の構成と咀嚼筋の作用		講義
	26	脊柱の役割と椎骨の基本的構造	椎骨の基本的構造と役割と支持する組織の作用を説明できる。 胸郭の役割と構造を説明できる。	講義
	27	胸郭の構成骨		講義
	28	頸部・腹部の筋・固有背筋の作用	頸部と体幹部に作用する筋と筋の作用を説明できる。 呼吸に作用する筋の区分を説明できる。	講義
	29	頸部・腹部の筋・固有背筋の作用		講義
	30	試験		試験

【分野】	専門分野 基礎柔道整復学			
【科目】	柔道整復論基礎 I			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	細野 昇	
単位数	3 単位		実務経験	5年以上
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	30回
【授業情報】				
授業概要	整形外科病院での勤務、柔道整復施術所を開業した経験がありその実務経験を活かした授業を展開し柔道整復術の実践に必要な骨の構造と機能を理解、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。			
授業の一般目標 (GIO)	骨折の発生機序と損傷形態を理解し骨折の治癒過程および治癒に対する影響因子との関係を学習する。			
【担当教員から】				
教科書	柔道整復学理論編			
参考書	神中整形外科学(天児 民和) 新版整形外科学・外傷学(東 博彦他) 骨・関節の外傷(ワトソンジョーンズ・柏木 大治訳) 一人で学べる柔整理論(呉竹学園編)			
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学習	各授業に対して復習を2時間			
履修にあたっての留意点	予習より復習が大事です。 この科目が抑えられないと柔整理論臨床科目で躓いてしまいます。文字だけを覚えるのではなく、立体的に体を捉えられるようにして、「使える知識」を目指しましょう。			

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	柔道整復の沿革	柔道整復の概要がいえる	講義
	2	骨折の定義	骨折の定義をいえる。	講義
	3	骨損傷の分類	骨の発生機転による分類を挙げ説明できる。	講義
	4	骨損傷の分類	骨折の程度による分類を挙げ説明できる。	講義
	5	骨損傷の分類	軟部組織の損傷の有無による分類を挙げ説明できる。	講義
	6	骨損傷の分類	外力の働き方による分類を挙げ説明できる。	講義
	7	骨損傷の分類	骨折線・骨片の数による分類を挙げ説明できる。	講義
	8	骨折の症状	骨折症状を分類し説明できる。	講義
	9	骨折の症状	骨折症状を分類し説明できる。	講義
	10	試験		試験
2期	11	骨折の症状	骨折症状を分類し説明できる。	講義
	12	合併症	併発症、続発症、後遺症について理解し説明できる	講義
	13	合併症	併発症、続発症、後遺症について理解し説明できる	講義
	14	合併症	併発症、続発症、後遺症について理解し説明できる	講義
	15	合併症	併発症、続発症、後遺症について理解し説明できる	講義
	16	合併症	併発症、続発症、後遺症について理解し説明できる	講義
	17	合併症	併発症、続発症、後遺症について理解し説明できる	講義
	18	正常経過による治癒機転	正常経過による治癒機転の概要を理解する	講義
	19	異常経過による治癒機転	異常経過による治癒機転の概要を理解する	講義
	20	骨折の治癒障害	骨折の治癒障害の概要を知る	試験
	21	正常経過による治癒機転	正常経過による治癒機転の概要を理解する	講義
	22	異常経過による治癒機転	異常経過による治癒機転の概要を理解する	講義
	23	骨折の治癒障害	骨折の治癒障害の概要を理解する	講義
	24	骨折の治療法	骨折治療法を説明できる	講義
	25	骨折の治療法	骨折治療法を説明できる	講義
	26	手技療法	手技療法を説明できる	講義
	27	物理療法	物理療法の概要を説明できる	講義
	28	運動療法	運動療法の概要を説明できる	講義
	29	まとめ	柔道整復術のまとめ	講義
	30	試験		試験

【分野】	専門分野 基礎柔道整復学			
【科目】	柔道整復論基礎Ⅱ			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	合田 香奈	
単位数	3 単位		実務経験	5年以上
開講学期	1学期・2学期	授業形態・回数	講義	30回
【授業情報】				
授業概要	関節及び軟部組織の形態的および機能的特徴を理解し、柔道整復施術所での実務経験を活かしより実践に必要な日常遭遇する関節損傷の基礎的知識を修得する講義を行う。			
授業の一般目標 (GIO)	関節及び軟部組織の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に理解する。 関節及び軟部組織損傷の発生機序と損傷形態との関係を理解する。 また関節及び軟部組織損傷の保存療法、治癒過程および治癒に対する影響因子との関係を理解する。			
【担当教員から】				
教科書	柔道整復学(理論編)・柔道整復を学ぶための運動器基礎知識			
参考書	神中整形外科学(天児・民和)・新版整形外科学・外傷学(東 博彦他) 骨・関節の外傷(ワトソンジョーンズ・柏木 大治訳) 一人で学べる柔整理論(呉竹学園編)			
成績評価基準	評価の観点とは1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学修	各授業に対して復習を2時間			
履修にあたっての留意点	国家試験出題基準の基づいて頻出試験問題の内容を中心に授業を展開します。 発展的内容を探究したい時、理解できない内容がある場合は、教員に相談するか図書館などを利用し専門書にて理解度深めてください。			

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	関節の概要・分類・構成	関節構造の概略を理解できる	講義
	2	関節の機能	関節の構成・分類に関し熟知する	講義
	3	構成組織の機能(骨および関節軟骨)	関節における骨および軟骨の機能を知る	講義
	4	構成組織の機能(関節包および靭帯、関節円板)	関節における関節包および靭帯の機能を知る 関節における関節円板の機能を知る 付属組織と関節機能との関係を理解する	講義
	5	脱臼の概念・定義	脱臼の概念を習得、定義を知る	講義
	6	脱臼の分類(関節の性状・発生機序・程度)	外傷性・病的脱臼の相違を知る 脱臼の発生機序・程度の分類を知る	講義
	7	脱臼の分類(脱臼方向・数・軟部組織損傷)	脱臼方向・数等による分類を知る 単純脱臼・複雑脱臼の相違を知る	講義
	8	脱臼の分類(経過・頻度および機序)	新鮮脱臼・陳旧性脱臼の相違を知る 反復性・習慣性脱臼の相違を知る	講義
	9	脱臼の病態	脱臼関節の病態を知る 脱臼関節での周辺組織の状態を知る 脱臼が関連組織に与える影響を知る	講義
	10	試験		試験
2期	11	脱臼の一般症状	脱臼における一般症状の特徴を理解する	講義
	12	脱臼の固有症状	脱臼にみられる固有症状を知る 脱臼の固有症状の診断上の意義を理解する	講義
	13	脱臼の合併症	脱臼に併発する損傷を知る	講義
	14	脱臼の併発症	各併発症の主要な原因と特徴を理解する	講義
	15	脱臼の続発症	脱臼に続発する損傷を知る 各続発症の主要な原因と特徴を理解する	講義
	16	脱臼の治癒経過	脱臼治癒機転の概要を知る	講義
	17	脱臼の予後	正常経過・異常経過の相違を理解する 予後に影響を与える因子と関係性を知る	講義
	18	脱臼の整復法	脱臼整復の種類と概要を知る 徒手整復・観血整復の特徴と適応を知る	講義
	19	脱臼の固定法	徒手整復法の原則を知り理解する 脱臼固定法の種類・特徴・適応を知る	講義
	20	関節損傷の後療法	脱臼治療上の重要な注意点を知る 後療法の種類・適応・禁忌を知る	講義
	21	関節損傷の後療法		講義
	22	関節損傷の後療法		講義
	23	関節損傷の後療法		講義
	24	関節損傷の後療法		講義
	25	軟部組織損傷	各部位の軟部組織損傷の種類と概要を知る 発生機序と主要な症状を知る。 軟部組織損傷の評価法と治療法を知る。	講義
	26	軟部組織損傷		講義
	27	軟部組織損傷		講義
	28	軟部組織損傷		講義
	29	軟部組織損傷		講義
	30	試験		試験

【分野】	専門分野 基礎柔道整復学			
【科目】	運動機能障害評価			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	篠 弘樹／加藤 栄二／千葉 真央	
単位数	5 単位		実務経験	5年以上
開講学期	1学期・2学期・3学期	授業形態・回数	講義	50回
【授業情報】				
授業概要	柔道整復施術所(加藤・千葉)、整形外科勤務後柔道整復施術所を開業(篠)している。その経験を活かしより実践的な技術の修得を図り、柔道整復業務に必要な運動機能障害評価法を実践に向けた授業を展開する。柔道整復構造機能論(上肢)(下肢)で学んだ知識を踏まえ、骨、関節、筋の理解を深め、それらを触診できるよう学修する。また、施術の補助手段(肢長、周径、関節可動域測定、徒手筋力測定など)を学修する。			
授業の一般目標(GIO)	上肢・下肢に関連する正常な骨、関節、筋を体表から触診することができる。 また、施術の補助手段(肢長、周径、関節可動域測定、徒手筋力測定など)を身につける。			
【担当教員から】				
教科書	とくになし			
参考書	「解剖学」改訂第2版(社)全国柔整学校協会監修 「運動学」改訂第3版(社)全国柔整学校協会監修 運動療法の為の機能解剖学的触診技術(上肢) 改訂第2版			
成績評価基準	評価の観点は1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A:100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学習	復習を2時間			
履修にあたっての留意点	その日習ったことをその日のうちに覚えきりましょう。 また、骨・関節・筋・神経を立体的に繋げて覚えましょう。			

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	触診の基礎 骨の触診(上肢)	触診の一般原則を理解する。 上肢骨のランドマークを触れることができる	演習
	2	骨の触診(上肢)	上肢骨のランドマークを触れることができる	演習
	3	骨の触診(上肢)		演習
	4	関節の触診(上肢)		上肢の関節を触れることができる。
	5	関節の触診(上肢)	演習	
	6	筋の触診(上肢)	上肢の関節にかかわる代表的な筋を、骨のランドマークをもとに触れることができる。	演習
	7	筋の触診(上肢)		演習
	8	筋の触診(上肢)		演習
	9	筋の触診(上肢)		演習
	10	筋の触診(上肢)		試験
	11	触診の基礎、骨の触診(下肢)	触診の一般原則を理解し、下肢骨のランドマークを触ることができる。	演習
	12	骨の触診(下肢)	下肢骨のランドマークを触ることができる。	演習
	13	骨の触診(下肢)		演習
	14	骨の触診(下肢)		演習
	15	関節の触診(下肢)	下肢の関節を触ることができる。	演習
	16	関節の触診(下肢)		演習
	17	関節の触診(下肢)		演習
	18	筋の触診(下肢)	下肢の関節に関わる代表的な筋を触ることができる。	演習
	19	筋の触診(下肢)		演習
	20	期末試験		試験
2期	21	測定の基本 形態測定(上肢)	測定の基本を理解し、上肢の肢長・周径を測定することができる。	演習
	22	関節可動域測定(上肢)	関節可動域の一般原則を理解し、上肢の関節(肩関節、肘関節、手関節、指関節)の可動域を測定できる。	演習
	23	関節可動域測定(上肢)		演習
	24	関節可動域測定(上肢)		演習
	25	関節可動域測定(上肢)		演習
	26	徒手筋力検査法(上肢)	徒手筋力検査法の一般原則を理解し、上肢の関節(肩関節、肘関節、手関節、指関節)に関わる筋の検査ができる。	演習
	27	徒手筋力検査法(上肢)		演習
	28	徒手筋力検査法(上肢)		演習
	29	徒手筋力検査法(上肢)		演習
	30	徒手筋力検査法(上肢)		試験

2期	31	筋の触診(下肢)	下肢の関節に関わる代表的な筋を触ることができる。	演習
	32	筋の触診(下肢)		演習
	33	測定の基本、形態測定(下肢)	測定の基本を理解し、下肢の肢長・周径を測定することができる。	演習
	34	関節可動域測定(下肢)	関節可動域測定的一般原則を理解し、下肢の関節(股関節、膝関節、足関節)の可動域が測定できる。	演習
	35	関節可動域測定(下肢)		演習
	36	関節可動域測定(下肢)		演習
	37	徒手筋力検査法(下肢)	徒手筋力検査法的一般原則を理解し、下肢の関節(股関節、膝関節、足関節)に関わる筋の検査ができる。	演習
	38	徒手筋力検査法(下肢)		演習
	39	徒手筋力検査法(下肢)		演習
	40	試験		試験
3期	41	肩関節の徒手検査	肩関節損傷の代表的な徒手検査を理解し実施できる。ヤーガソテスト・ペインフルアーク・インピンジメントサインなど	演習
	42	肩関節の徒手検査		演習
	43	肩関節の超音波画像観察	肩関節の超音波画像を理解する。	演習
	44	肘関節の徒手検査	肘関節損傷の代表的な徒手検査を理解し実施できる。側方動揺テスト・トムゼンテストなど	演習
	45	肘関節の超音波画像観察	肘関節の超音波画像を理解する。	演習
	46	膝関節の徒手検査	膝関節損傷の代表的な徒手検査を理解し実施できる。ラックマンテスト・引き出し徴候・側方動揺性テスト・マックカリーテスト・膝蓋跳動など	演習
	47	膝関節の徒手検査	膝関節損傷の代表的な徒手検査を理解し実施できる。ラックマンテスト・引き出し徴候・側方動揺性テスト・マックカリーテスト・膝蓋跳動など	演習
	48	膝関節の超音波画像観察	膝関節の超音波画像を理解する。	演習
	49	膝関節の超音波画像観察	膝関節の超音波画像を理解する。	演習
	50	試験		試験

【分野】	専門分野 臨床柔道整復学			
【科目】	柔道整復論臨床 I			
【基本情報】				
配当年次	1	学年	担当教員	細野昇／合田 香奈
単位数	3	単位	実務経験	5年以上
開講学期	2学期・3学期		授業形態・回数	講義・演習 30回
【授業情報】				
授業概要	担当の細野、は整形外科病院、柔道整復施術所での勤務経験がありその実務経験を活かして実践に向けて授業を展開する。四肢及び体幹部の具体的な損傷過程や損傷形態を理解し好発する外傷に対して柔道整復術適応の臨床判定(医用画像の理解を含む)を学修する。各種物理療法機器の概要、適応と禁忌、取り扱い上の注意点を 知る。臨床柔道整復学の導入の授業であるため四肢及び体幹部における代表的な損傷を理解する運動器の機能維持・向上させる専門職として責任を自覚し高度な専門知識と技術を駆使し患者と柔道整復師の良好な関係を築くために患者の個別的な背景を理解し問題を把握する能力を身につける。またチームケアの重要性を理解し他職種との連携の必要性を理解する。			
授業の一般目標 (GIO)	柔道整復に関わる診察法(医療面接)、及び基本的な診察技術について修得する。運動器損傷の診察における身体計測について修得する。各種物理療法機器の概要及び操作方法を修得する。また、インフォームドコンセントの実践に向けてその理解を深める。			
【担当教員から】				
教科書	公益社団法人柔道整復学校協会監修 柔道整復学実技編、理論編、運動器の基礎知識			
参考書	神中整形外科学(天児 民和) 新版整形外科学・外傷学(東 博彦他) 骨・関節の外傷(ワトソンジョーンズ・柏木 大治訳) 一人で学べる柔整理論(呉竹学園編)			
成績評価基準	評価の観点とは1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満			
授業時間外に必要な学習	復習を2時間			
履修にあたっての留意点	発展的内容を探求したい時、理解できない内容がある場合は、教員に相談するか図書館などを利用し専門書にて理解度深めてください。			
【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
2期	1	足関節捻挫	捻挫の定義を説明できる。 足関節捻挫の症状及び特徴を知る。	講義
	2		側副靭帯損傷の分類と発生機序を知る。	講義
	3		診断に資する検査法、陽性所見の詳細を知る。柔道整復術適応の臨床判定(医用画像の理解する)。	講義
	4		治療法の詳細を知る。 保存療法の適応範囲を知る。損傷の状況に合わせて物理療法機器の適用ができる。	講義
	5		模擬患者が演じられる。	講義
	6	膝関節捻挫	側副靭帯損傷の分類と発生機序を知る。	講義
	7		診断に資する検査法、陽性所見の詳細を知る。柔道整復術適応の臨床判定の医用画像を理解する。	講義
	8		治療法の詳細を知る。 保存療法の適応範囲を知る。損傷の状況に合わせて物理療法機器の適用ができる。	講義
	9		模擬患者が演じられる。	講義
	10		試験	講義

3期	11	前腕骨遠位端部骨折 Colles骨折	前腕遠位端部骨折の分類を詳細に知る。Colles骨折の詳細を知る。	講義
	12		Colles骨折の詳細を知る。柔道整復術適応の臨床判定の医用画像を理解する。	講義
	13		骨折の整復法及び原理を理解する。	講義
	14		牽引直圧整復法の操作を熟知する。	講義
	15		後療法実施上の注意とポイントを理解する。保存療法の適応範囲を知る。損傷の状況に合わせて物理療法機器の適用ができる。	講義
	16		骨折治療上の注意点を知る。	講義
	17		模擬患者が演じられる。	講義
	18	上腕骨骨幹部骨折	骨幹部骨折の骨折型及び発生機序を知る。骨折型分類別の症状の特徴を理解する。柔道整復術適応の臨床判定の医用画像を理解する。	講義
	19		合併症の詳細を理解する。整復法・固定法について詳細を理解する。	講義
	20	試験		
3期	21	鎖骨の脱臼(総論)	鎖骨脱臼の分類ができる。	講義
	22	肩鎖関節脱臼	肩鎖関節脱臼の概要を理解し説明できる。	講義
	23	胸鎖関節脱臼	胸鎖関節脱臼の概要を理解し説明できる。	講義
	24	肩関節の脱臼(総論)	肩関節脱臼の分類ができる。	講義
	25	肩関節前方脱臼	肩関節脱臼の概要を理解し説明できる。	講義
	26		代表的な整復法を模擬的にできる。	講義
	27		合併症に対して予後を説明できる。	講義
	28	反復性肩関節脱臼	発生要因を理解し予防対策を説明できる。	講義
	29	肩関節部の軟部組織損傷	症状を理解し損傷部位を把握できる。	講義
	30	試験		

【分野】	専門分野 臨床柔道整復学			
【科目】	患者対応基礎			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	杉山直人	
単位数	3 単位		実務経験	5年以上
開講学期	通年	授業形態・回数	講義・演習	30回
【授業情報】				
授業概要	運動器の機能維持・向上させる専門職として責任を自覚し整形外科、柔道整復施術所での実務経験を活かしより実践的で高度な専門知識と技術を駆使した授業を展開する。患者と柔道整復師の良好な関係を築くために患者に対する説明する能力を身につける。			
授業の一般目標 (GIO)	柔道整復に関わる診察法(医療面接)、及び基本的な診察技術について修得する。各種物理療法機器の概要、操作方法及び実施時の説明する能力を修得する。また、インフォームドコンセントの実践に向けてその理解を深める。			
【担当教員から】				
教科書	柔道整復学実技編・理論編、関係法規			
参考書				
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>			
授業時間外に必要な学習	各授業に対して復習を2時間			
履修にあたっての留意点	患者に対して説明し、同意を得ることは柔道整復業務において必須の作業である。この説明する能力を身につけより実践を想定して授業を展開していく。授業ではグループワークを導入するので活発にコミュニケーションをとること。			

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
1期	1	柔道整復の沿革	柔道整復師の名称の由来を知る。 柔道整復師を説明できる。	演習
	2	柔道整復業務	柔道整復の業務対象を挙げられる。	演習
	3	柔道整復業務(業務の実際)	柔道整復の業務を説明できる。	演習
	4	柔道整復師の概要	柔道整復師を簡単に説明できる。	演習
	5	柔道整復師法	柔道整復師法における柔道整復師の定義をいえる。	演習
	6	柔道整復師法	柔道整復師法上の業について説明できる。	演習
	7	柔道整復師法	施術所について説明できる。 免許を受けるための要件について説明できる。	演習
	8	柔道整復師法	業務範囲について説明できる	演習
	9	柔道整復師法	秘密を守る義務について説明できる	演習
	10	試験		
2期	11	骨折の施術	骨折の施術について説明できる。	演習
	12	脱臼、捻挫の施術	脱臼、捻挫の施術について説明できる。	演習
	13	柔道整復師の診察	診察時の注意点を説明できる。	演習
	14	施術録	施術録の扱いと記載について説明できる。	演習
	15	柔道整復師の診察	柔道整復師の診察項目が列挙できる。	演習
	16	柔道整復師の診察	問診の項目が列挙できる。	演習
	17	柔道整復師の医療面接の手順	医療面接の手順が説明できる。 視診時の適切な環境を理解できる。 視診の項目を列挙できる。	演習
	18	柔道整復師の医療面接の実際	医療面接に用いる質問ができる。 触診の項目が列挙できる。 機能的診察項目が列挙できる。	演習
	19	柔道整復師の医療面接の実際	模擬的に医療面接ができる。	演習
	20	試験		
3期	21	インフォームドコンセント(インフォームドコンセントの実際)	インフォームドコンセントについて説明できる。	演習
	22	説明の重要性	患者に対する説明の重要性を理解し説明できる。	演習
	23	患者に対しての説明	患者に対して説明する場面を挙げ、その場面における説明内容をいえる。	演習
	24	物理療法各論	物理療法を分類できる。	演習
	25	物理療法各論	物理療法の禁忌を説明できる。	演習
	26	物理療法各論	電気療法の概要を理解し説明できる。	演習
	27	物理療法各論	電気療法の概要を理解し説明できる。	演習
	28	物理療法各論	温熱療法の概要を理解し説明できる。	演習
	29	物理療法各論	温熱療法の概要を理解し説明できる。	演習
	30	試験		

【分野】	専門分野 柔道整復実技			
【科目】	柔道整復治療法基礎			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	篠弘樹／千葉真央／加藤栄二	
単位数	4 単位		実務経験	施術所勤務5年以上
開講学期	通年	授業形態・回数	実技	60回
【授業情報】				
授業概要	<p>主担当の篠(整形外科勤務後柔道整復施術所を開業)、千葉、加藤(柔道整復施術所及び整形外科勤務)は実務経験を活かしより実践的な固定技術の修得やX線写真等の画像に関する資料を用いた授業を展開する。様々な固定材料を使用し的確な固定ができることは柔道整復師にとって必須である。また、診断の補助手段としての計測法、徒手の検査技術も理解を深め、後療法に理解し実践していく。</p>			
授業の一般目標(GIO)	<p>固定材料(包帯・副木・厚紙副子・金属副子・絆創膏・ギプス・熱可塑性材料(プライトンなど)・プラスチックキャスト)を用いた固定法を知る。診断の補助としての計測法、徒手の検査技術を理解する。運動療法についても理解する。</p>			
【担当教員から】				
教科書	包帯固定学・柔道整復学実技編・理論編			
参考書				
成績評価基準	評価の観点とは1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。			
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満</p>			
授業時間外に必要な学習	各授業に対して復習を1時間			
履修にあたっての留意点				
【授業計画】				

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	
前期	1	巻軸包帯	晒しを使用し巻軸包帯の作成法を知る。	実技
	2	巻軸包帯	巻軸包帯の使用目的と特徴を知る。	実技
	3	巻軸包帯	使いやすい巻軸包帯の特徴を知る。	実技
	4	巻軸包帯	巻軸包帯を作成できる。	実技
	5	巻軸包帯	巻行帯と蛇行帯の適応部位を知る。	実技
	6	巻軸包帯	適応部位に巻行帯と蛇行帯が巻ける。	実技
	7	巻軸包帯	麦穂帯と亀甲帯の適応部位を知る。	実技
	8	巻軸包帯	適応部位に麦穂帯と亀甲帯が巻ける。	実技
	9	巻軸包帯	折転帯の適応部位を知る。	実技
	10	巻軸包帯	適応部位に折転帯が巻ける。	実技
	11	絆創膏	絆創膏固定の使用目的と特徴を知る。	実技
	12	絆創膏	絆創膏固定の適応について理解する。	実技
	13	絆創膏	体幹部の絆創膏固定ができる。	実技
	14	絆創膏	上肢の主要な関節の絆創膏固定ができる。	実技
	15	絆創膏	下肢の主要な関節の絆創膏固定ができる。	実技
	16	副子	厚紙副子固定の使用目的と特徴を知る。	実技
	17	副子	厚紙副子固定の適応について理解する。	実技
	18	副子	部位に適応した厚紙副子が作成できる。	実技
	19	副子	体幹部の厚紙副子固定ができる。	実技
	20	副子	金属副子固定の使用目的と特徴を知る。	実技
	21	副子	金属副子固定の適応について理解する。	実技
	22	副子	部位に適応した材料を選択できる。	実技
	23	副子	金属副子を部位に適応させ成形できる。	実技
	24	副子	上肢の主な部位の金属副子固定ができる。	実技
	25	副子	下肢の主な部位の金属副子固定ができる。	実技
	26	副子	厚紙副子・副木と金属副子を併用した固定ができる。	実技
	27	ギプス	ギプスの使用法を知る。	実技
	28	ギプス	ギプスシーネの使用目的と特徴を知る。	実技
	29	ギプス	ギプスシーネの適応について理解する。	実技
	30	試験		実技

後期	31	鎖骨骨折	8字帯による固定ができる。	実技
	32	肩鎖関節上方脱臼	絆創膏固定・三角巾用いて固定ができる。	実技
	33	肩関節前方脱臼	局所副子・三角巾固定ができる。	実技
	34	上腕骨骨幹部骨折	ミッドドルフ三角副子固定ができる。	実技
	35	肘関節後方脱臼	クラーメル副子・三角巾固定	実技
	36	コーレス骨折	クラーメル副子と局所副子による固定ができる。	実技
	37	コーレス骨折	三角巾固定ができる。	実技
	38	第5 指中手骨頸部骨折・手第2 指PIP 関節背側脱臼	アルミ副子固定ができる。	実技
	39	第5 指中手骨頸部骨折・手第2 指PIP 関節背側脱臼	アルミ副子固定ができる。	実技
	40	下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂	クラーメル副子固定ができる。	実技
	41	下腿骨骨幹部骨折・アキレス腱断裂	クラーメル副子固定ができる。	実技
	42	足関節外側靭帯損傷	局所副子固定ができる。	実技
	43	足関節外側靭帯損傷	局所副子固定ができる。	実技
	44	膝関節内側側副靭帯損傷	Xサポートテープ固定ができる。	実技
	45	膝関節内側側副靭帯損傷	Xサポートテープ固定ができる。	実技
	46	膝関節内側側副靭帯損傷	Xサポートテープ固定ができる。	実技
	47	足関節外側靭帯損傷	バスケットウィーブテープ固定	実技
	48	足関節外側靭帯損傷	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定	実技
	49	足関節外側靭帯損傷	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定	実技
	50	足関節外側靭帯損傷	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定	実技
	51			
	52	上肢の触診・形態測定・ROM・MMT	上肢の診察において知識・技術を統合し実践することができる。	実技
	53			
	54			
	55	下肢の触診・形態測定・ROM・MMT	下肢の診察において知識・技術を統合し実践することができる。	実技
	56			
	57			
	58	上肢・下肢・体幹の包帯法	上肢・下肢・体幹の代表的な外傷に対して固定ができる。	実技
	59			
	60	試験		

【分野】	専門分野 臨床実習			
【科目】	臨床実習 I			
【基本情報】				
配当年次	1 学年	担当教員	杉山直人／早川幸秀／飯田双海／丸山純子／千葉真央／加藤栄二 ／池亀耕太／岡和子／田辺耕太／紀平晃功	
単位数	1 単位		実務経験	5年以上
開講学期	3学期	授業形態・回数	実習	外部:3日3施設 (1施設1日:8時間:24時間) 内部:21時間
【授業情報】				
授業概要	臨床見学実習は、近隣の事業所(柔道整復施術所)赴き、自ら進む柔道整復師像のイメージを創る。			
授業の一般目標 (GIO)	柔道整復事業所における柔道整復師の知識、技能、態度を見学実習することにより自ら進む柔道整復師像を捉えると共に学内における授業の重要性を理解し充実した学校生活を送る。			
成績評価基準	評価の観点とは1)授業の理解と表現 2)知識の浸透度と理解度とする。			
成績評価方法	実習指導者による評価、および実習におけるデイリーノート等により総合的に評価する。			
授業時間外に必要な学習				
履修にあたっての留意点	臨床の場においては、まずは医療人としてふさわしい態度・服装・容姿が求められます。患者様の立場で、どのような態度・容姿が求められるか、自らも考えて実習に臨んでください。			
【授業計画】				
	回数	見学及び実習内容	到達目標(SBOs)	講義形態
2学期 3学期 (学内 実習)	1~11	医の倫理	柔道整復師の職業倫理を理解する	実習
		態 度	施術者に相応しい身だしなみ(服装・容姿)ができる 施術者に相応しい挨拶と言葉遣いができる時間や約束事を守ることができる(規律性)	実習
			臨床実習指導者の指示に適切に応えることができる 実習先のスタッフと良好なコミュニケーションを築くことができる(協調性)	実習
			実習に際して目的意識を持って臨むことができる(積極性) 患者に不快感を与えない態度がとれる	実習
		守秘義務	守秘義務・個人情報に注意を払っている	実習
		付帯業務	施術室や待合室などの清潔保持の意味が説明できる	実習
			施術室や待合室などの清潔保持ができる(責任性)	実習
		物理療法	物理療法機器の効果と適応と禁忌が説明できる	実習
		介 助	患者誘導ができる。	実習
		施術録の作成	施術録の項目を説明できる	実習
		社会保障	社会保障制度のしくみの概略を説明できる	実習
			療養の給付と療養費の償還払いと受領委任払いのしくみを説明できる	実習
実習施設への事前確認	実習をスムーズに行う為に事前確認をとる	実習		

3学期 (学外 実習)	12～ 23	診療前の施術所の状態	施術所の構造、物品の配置を見ることで環境が整備されていることを理解し整理整頓できる。	実習
		診療録・会計の位置等の事務配置の位置	事務の配置を知りスタッフ動線を確認する	実習
		スタッフの身だしなみ。立ち居振る舞い。	自身の身だしなみと比較し不快感を抱かせない身だしなみを整え実習生として自覚を持ち行動する。	実習
		診療前スタッフミーティングの状況	申し送り等のスタッフ間コミュニケーション内容を理解し医療事故・過誤等の防止について理解する	実習
		患者来院時の挨拶・配慮の仕方	患者来院時の挨拶・配慮を知り、実習生として挨拶、自己紹介ができる	実習
		患者の誘導の仕方	患者誘導の仕方を知り、安全にできる	実習
		患者とのコミュニケーションの仕方	実習生として患者に声かけをしコミュニケーションがとれる	実習
		物理療法着脱時及びコミュニケーションの仕方	物理療法着脱時に不快感を与えない配慮を理解する。物理療法に対する知識、患者に対する説明する技能を理解する。	実習
		手技療法施術時のコミュニケーションの仕方	手技療法施術時の医療事故等の防止策及び、不快感を与えない配慮を理解する。	実習
		固定着脱時のコミュニケーションの仕方	固定着脱時に不快感及び患部に悪影響を及ぼさない配慮を理解し、助手として行動できるように準備する。	実習
		会計時の対応	会計時ミスの防止について理解し施術録等の保管ができる。患者情報についての守秘義務を理解し行動できる。	実習
		初診患者の対応 ・予診表記入の説明の、診察、治療に対するインフォームドコンセント、施術内容、受領委任払いの説明及び会計等の仕方	初診患者と再来患者との違い、診察・施術、会計時等の対応を知る。	実習
		振り返り	施術所での見学を通して柔道整復師の知識、技能、態度習慣の重要性を理解し能動的な学修ができる。	実習